

ヒートポンプ導入による燃油コスト削減

大津・南部農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

近年、円高による輸入切り花の増加や肥料など資材価格の上昇により、ばら切り花経営の収支は厳しい状況となっています。平成20年夏には、重油価格が高騰し、重油使用量の削減のため国庫事業により4戸でヒートポンプが導入されました。そこで、重油コストが計画どおり削減できるよう支援しました。

ヒートポンプを使った暖房は、重油削減につながることから全国的に注目されていました。しかし、7以下では暖房効率が低下するため、県内では重油暖房との併用が必要です。そのため、重油暖房機と併用した場合の重油削減効果とイニシャルコストを含めた暖房コスト削減効果について検証し、その結果を共有することで更なるコスト削減やヒートポンプの有効利用を促進することを期待しました。

【普及活動の成果】

平成20～21年暖房期間の重油使用量は、4戸中3戸の平均で約81%もの削減となりました。削減後の重油代(単価50円)とヒートポンプの電気料金を足すと、重油のみで暖房した場合に比べ14%のコスト削減と試算されましたが、ヒートポンプの初期投資の償却費を加えると、逆に39%のコスト増となりました。

これらの結果をばら部会の研修会で報告し、ヒートポンプの有効利用には、さらなる施設保温力の向上などの省エネ対策と、暖房だけでなく、除湿や夜冷などの周年有効活用が重要であることを確認しました。



研修会での報告